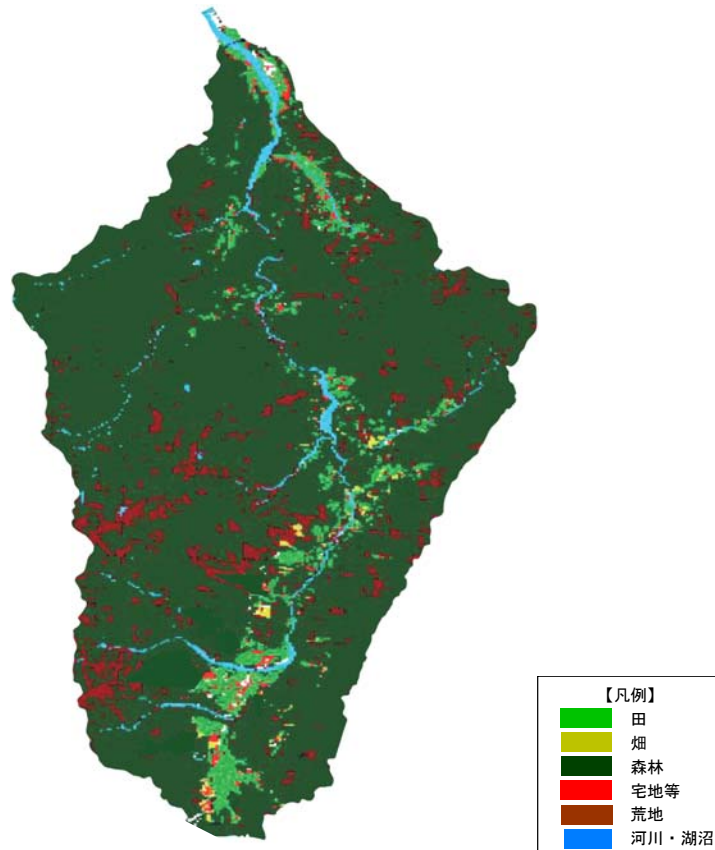


### 3. 流域の産業経済状況

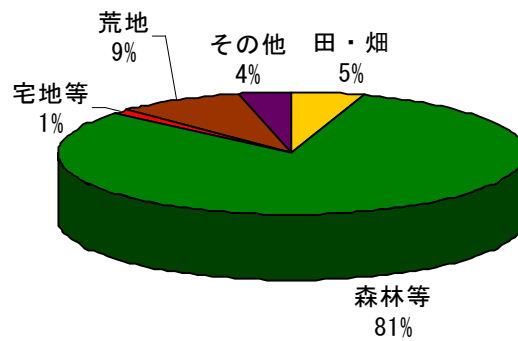
#### 3.1 土地利用

姫川流域は、長野、新潟両県にまたがり2市2村からなり、下流部の平野部には、新潟県糸魚川・西頸城<sup>にしくびき</sup>地方の主要都市である糸魚川市を有している。流域の土地利用は、山地が約94%、水田・畑が約5%、宅地等が1%となっている。



出典：国土数値情報、平成9年

図 3-1 姫川流域の土地利用分布



出典：国土数値情報、平成9年

図 3-2 土地利用割合

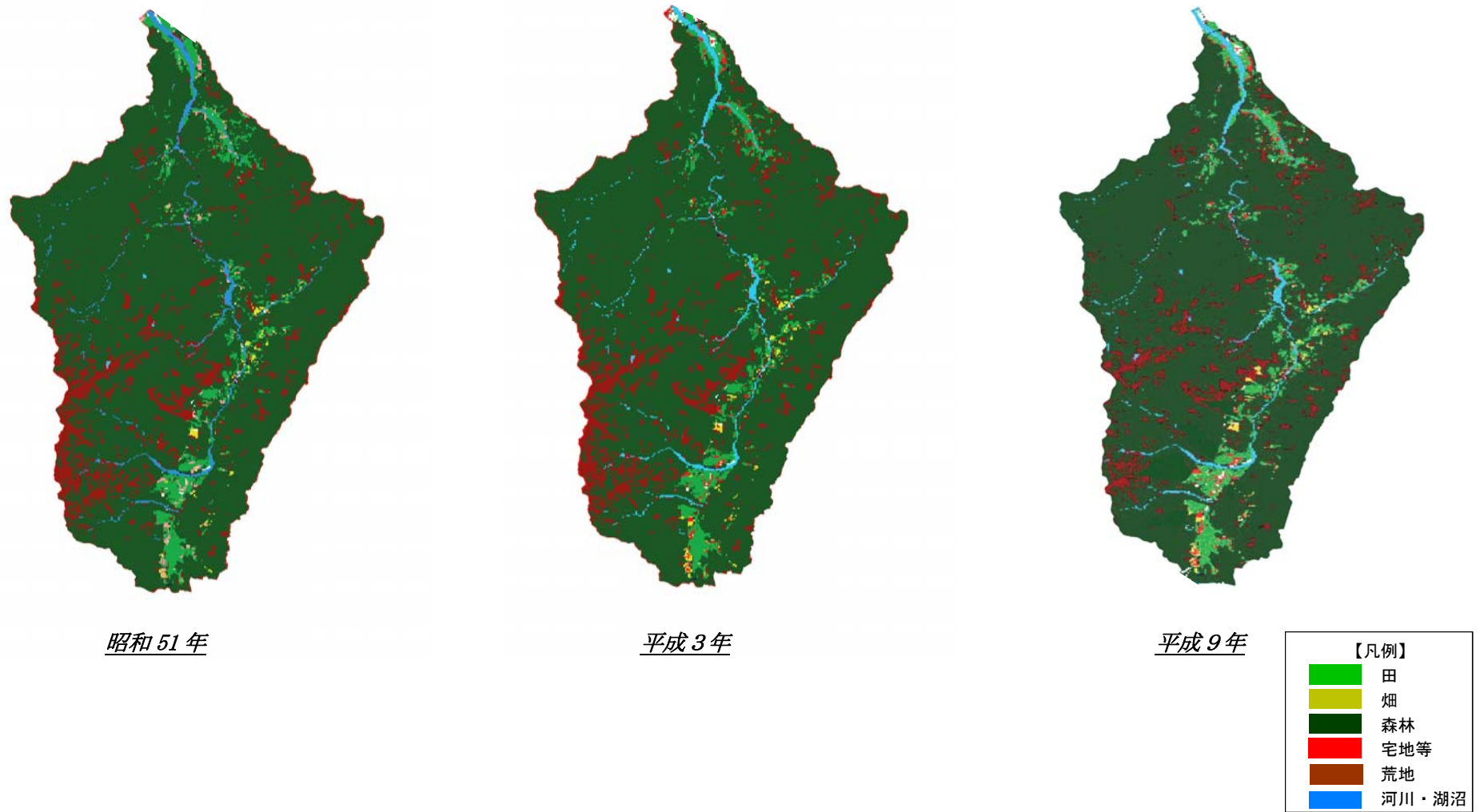


図 3-3 土地利用分布の変化

### 3.2 人口

姫川流域関連市町村の人口推移は、表 3-1及び図 3-4に示すとおりであり、長野県白馬村は増加傾向にあるが全体では減少傾向にある。

表 3-1 姫川流域市町村の人口推移

(単位：人)

県名	市町村名		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年		増減率 (%)	備考
	新	旧					人口	率		
新潟県	糸魚川市	糸魚川市	35,797	34,047	32,931	32,003	30,277	55.6%	△ 5.6	※1
		青海町	11,753	10,704	10,515	10,160	9,489	17.4%	△ 6.4	※1
長野県	美 麻 村		1,510	1,340	1,320	1,282	1,235	2.3%	△ 3.7	※2
	白 馬 村		7,919	8,356	8,906	9,492	9,500	17.5%	0.1	
	小 谷 村		4,699	4,474	4,307	4,276	3,920	7.2%	△ 8.3	
合 計			61,678	58,921	57,979	57,213	54,421	100%	△ 4.9	

※1 糸魚川市は平成17年3月に旧青海町・旧能生町と合併。平成17年の人口は糸魚川市HPより

※2 美麻村は、平成18年1月に大町市・旧八坂村と合併し、現在は大町市

出典：国勢調査、糸魚川市HP

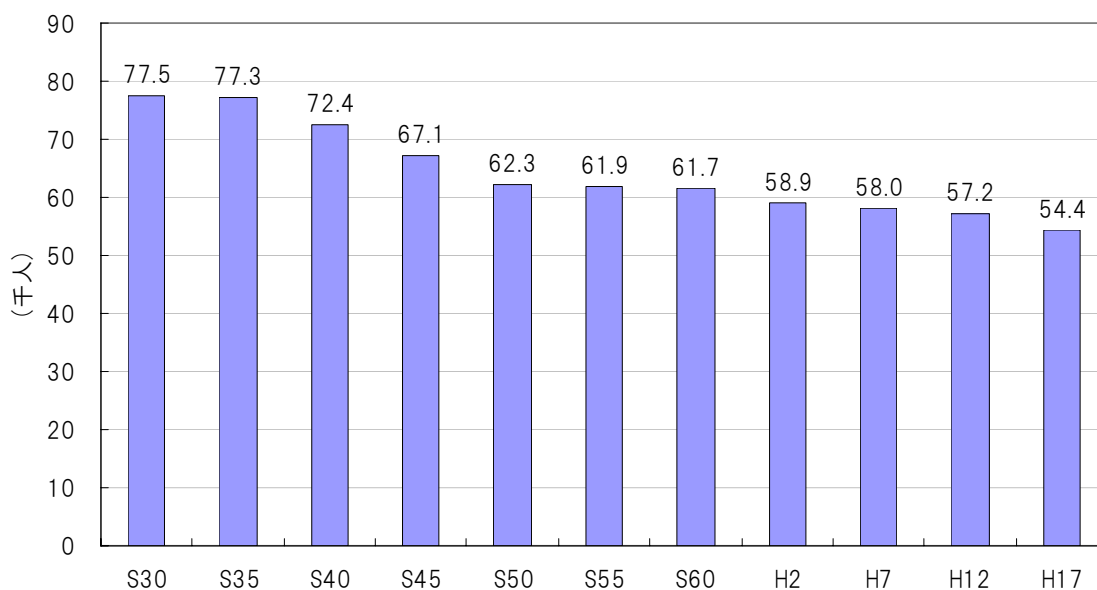


図 3-4 姫川流域市町村の人口の経年変化

出典：国勢調査（各年報告書、総務省HP）

### 3.3 産業

流域内の産業は山間を利用しての農業、林業が主であり、工業は明星山、黒姫山より算出する石灰石を利用してのセメント工業が盛んである。また、糸魚川市は山と海が調和した絶好の観光地となっている。

姫川流域市町村における産業別就業人口割合は、表 3-2及び図 3-5に示すとおりである。流域市町村は、スキーや温泉などの観光産業が盛んなことから、全体として第3次産業従事者の割合が高い。旧青海町はセメント工場などの立地により、第2次産業従事者の割合が高くなっている。



小滝川ヒスイ峡（新潟県 HP より）



八方尾根スキー場



姫川第七発電所



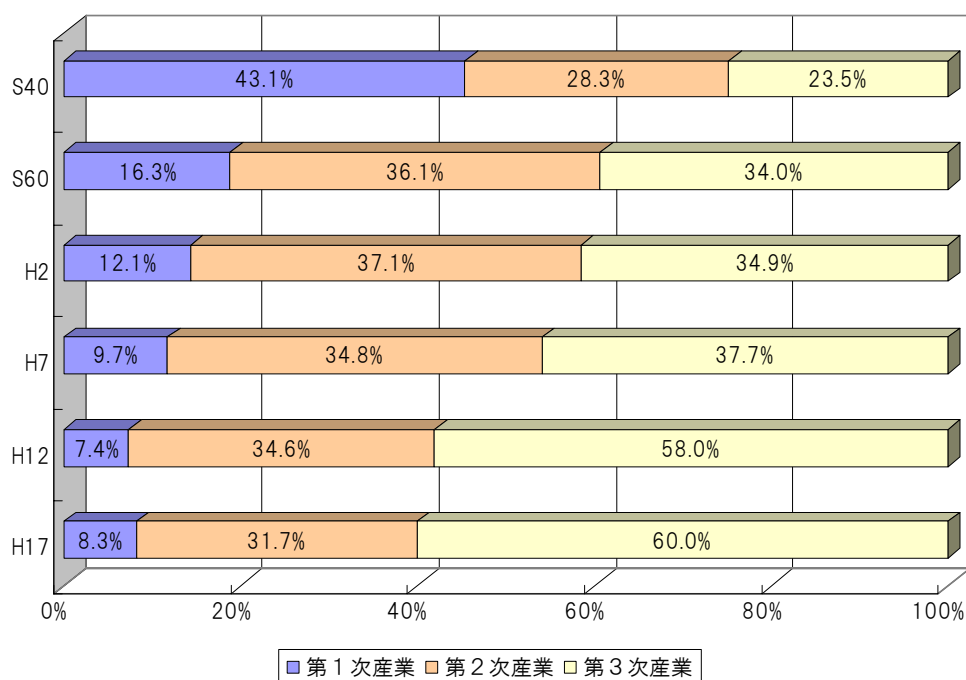
セメント工場

表 3-2 姫川流域市町村の産業別就業人口

(単位：人)

県名	市町村名		総数	産業別就業者数		
	新	旧		第1次産業	第2次産業	第3次産業
新潟県	糸魚川市	糸魚川市	15,204	1,204	5,319	8,681
		青海町	4,333	104	1,982	2,247
長野県	美麻村		654	125	185	344
	白馬村		5,277	484	814	3,979
	小谷村		2,066	365	425	1,276
合計		総就業者数	27,534	2,282	8,725	16,527
		割合	100%	8.3%	31.7%	60.0%

出典：総務省 平成17年国勢調査



出典：国勢調査（各年報告書、総務省HP）

図 3-5 姫川流域市町村の産業別就業人口割合の推移



### 3.4 社会経済の特徴

姫川が貫流する糸魚川市では、北陸自動車道、国道8号、148号等の広域交通網の整備されており、2014年度完成を目指し北陸新幹線の整備も進められている。

また、地方港湾姫川港は、化学、セメント工業を背景に発展し、取扱貨物量も年々増加し、平成16年には、過去最高の568万tの取扱を記録するなど順調に伸びてきており、当地域の海運拠点としての役割が一段と高まっている。

姫川改修事業の進捗により、糸魚川市大野地先の糸魚川温泉や糸魚川市南寺島地先の土地区画整理事業等の開発が進み、更なる地域の発展が期待される。

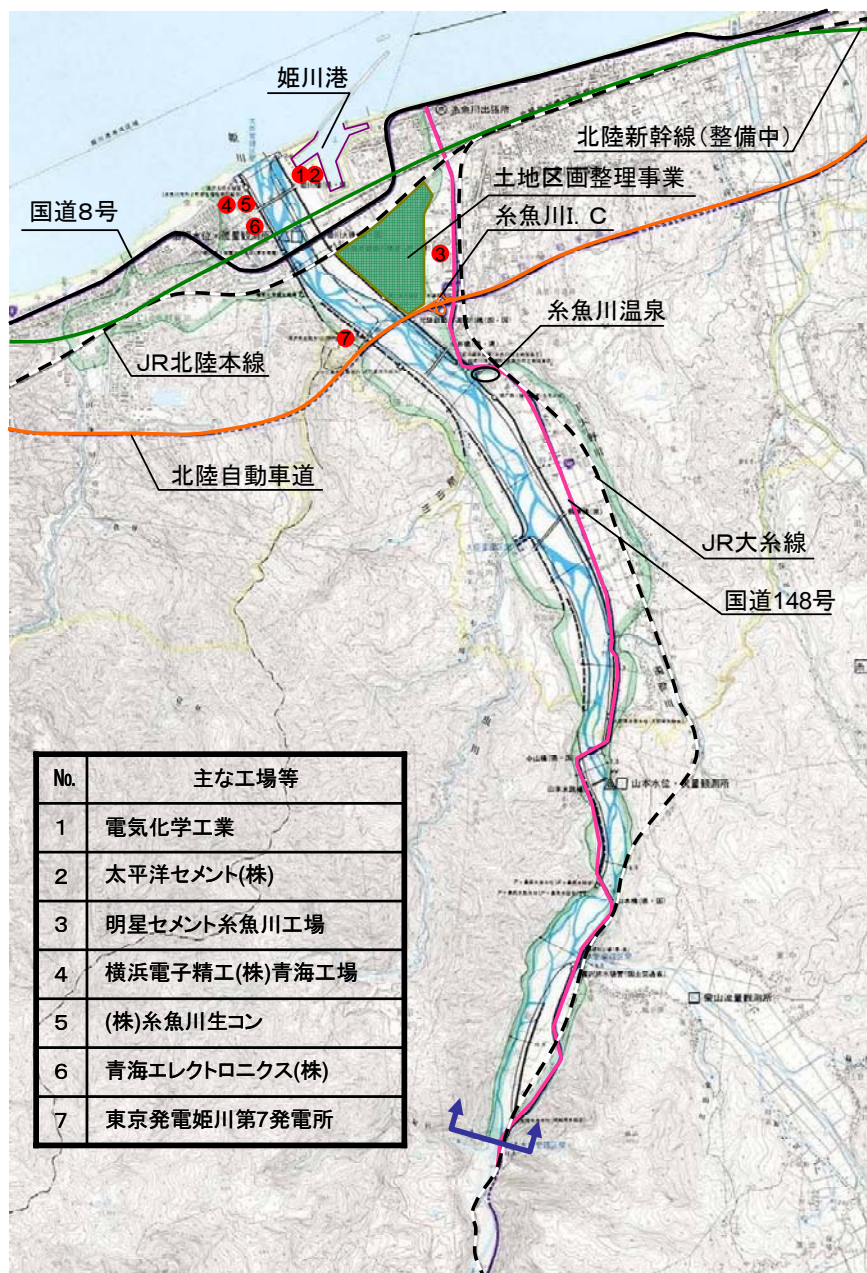


図 3-6 交通体系図水害と治水事業の沿革